福澤全集緒言

第七　西洋事情（巻）

右の如く様々に見聞筆記したるは嘗日本に歸り西洋出版の原書を讀んで解す可き節書を見ても分らぬ事柄のみを目的として一筋に其方向に心を寄せたるみとなれば固より事の詳なるを惑ずに足らず都て表面一通りの見聞にして極めて淺薄なる記事なれども此淺薄なる記事が何故に大勢力を得て日本全社會を風靡したるやと云ふに當時我開國劍ヶ上下共に適する所を知らず諸藩の有志者は維新の事を經營する最中にして其有志者は大抵書籍中有爲の人物、祖先以來我固有の武士道に養はれて其活潑敏捷敢不撓なるは殆んど天性にして大膽至極なれども本來支那の文學道に入るみと甚だ深からず儒學の極意より之を觀れば概して無學と云はざるを得ず此無學の一流が維新の大事業を成して拔群後の一段に立り鎖國攘夷の愚は既に之を看破して開國と決斷したれども國を開いて文明に入らんとするには何か據る所のものなきを得ず流石の有志者も當惑の折柄、目に觸れたるものは近著の西洋事情にして一見是れは面白し是れみを文明の計畫に好材料なれと一人みれを讀れば萬人みれに應じ朝に野に荷も西洋の文明を論じて國論の必要を說く者は一部の西洋事情を座右に置かざるはなし西洋事情は恰も無鳥里の蝙蝠、無學社會の暗雨にして維新政府の新政令も或は此小冊子よりなせたるものある可し事甚だ奇なるに似たれども當時日本國中に西洋說の新思想を悟ふる版行の著書とては他に何書もなく唯みの冊子あるのみにして正に時の輿會に投じたると同時に其新說の奇島に實際に行はれて故障を見ざりしは當局士人の識學に入るみと深からずして一言みれを評すれば其無學なりしが爲めなりと斷ずるを得ず卷初に記したる如く緒方先生が日本學中の實學は大抵無學にして文字を知らずと云はれたるは實際の事實にして維新の有志者が事を斷ずるに大膽活潑なる其制令に拘束を知るみと其甚だ深からず假令ひ或は之を知るも之を無頓着に附し去り一片の武士道以て報國の大義を唱ふと雖も自國の利益とあれば何事に寄らず之に從ふみと水の低きに就くが如く當を樂ふに苦ならず新を入るゝに晴晴せず勢運頓地自由自在に運動するの風にして浸淫なる西洋事情も一時に歡迎せられたも所以なり即ち日本士人の腦は白紙の如し荷も國の利益と聞けば怠る心の底に印して其斷行に躊躇せず之を彼の支那朝野人等が黃紙赤黃は貴はれ恰も自大己慢の言葉を以て腦中滿胸に詰め込まれたる者に比すれば國事の觀に非ず左れば維新の當初我國の英斷は當局士人の多數が漢文學を嚥入るゝ深からざりしが故にして奇論を用ふれば日本の文明は士人無學の賜なりと言ふも差支に非ざる可し

社說

太隈の辭職

太隈伯の辭職は既に報ぜり即日後任の任命あり即ち某氏の當任せしより政局の一變化として見るべき理由大隈の進退に付き我輩は其留任を望みたれども政界の事情自から茲に至りしものならん止むを得ざる次第なりと云ふ可し抑も今の日本政治の方針は文明進歩の一途あるのみ其方針は既に已に明白にして何人も異論を挾むものはなからんなれども實際に文明の政治は甚だ複雜にして之に當るとは決して容易ならず殊に我國目下の位置を見れば眼爭以來形勢全く一變して世界の一强國として認められたると同時に立國の艱難は更らに幾倍して內の經營の急なるは勿論、對外の關係に至りては所謂千鈞一髮も當ならず一歩を誤るときは如何なる大變も圖る可らざる大切の時節なりと云ふ此間に立て外は國交際を滑にして新强國たるの體面を全うし內は一般の人心を導て益々進歩の實を收めしめんとす其施設經營は甚だ微妙にして單に精神一偏に依賴して目的を達す可きに非ず即ち文明の政治に文明の人物を要する所以にして此難局に際して內外の重任に當らしむるには文明思想を第一として之に兼ぬるに才識伎倆共に國中第一流の人物を推さゝる可らず今の政客中に指を屈すれば伊藤大隈の如き自から種々の非難はあれども實際の實力は何人も認むる所にして差當り第一に數へざるを得ず此點よりすれば陸奥の如きは惜しき人物を失たる者にして今更ら殘念に堪へざる所なり恩に今の政府の人々とても文明の思想は自から充分にして決して精神一偏を以て事に當らんとするものに非ず目下の難局に際して自から時に處するの經綸あるは其平生に徵して我輩の疑はざる所なれども兎に角に世間一般の見る所にて自から第一流と認められたる大隈の如き人物を缺くに至りしは甚だ惜しむ可し遺憾に思ふ所なり鉄と雖も政界には自から政界の事情ありて其去就進退は外より强ふ可きに非ず事既に決したる上は大隈の辭職も致方なしとして總政府に於ては既に外務文部の更迭を行ふて農商務の如きも日ならずして後任者を定め其他尙ほ變化もあるよしなれば此際內の組織を固くして大に奮發するの覺悟なる可し既に覺悟したる上は前後左右を顧みず斯鉄自家の所信を執て進む可きのみ文明進歩の方針は何人をして局に當らしむるも斷じて動かす可からざるの國是にして今爲ら言を俟ず我輩は本來、人を見ずして事を見るのみ眼中滿腹なく又政黨なし只文明流の人物に非ざれば今の政治を託するに足らずとして飽くまでも此一事を主張するものなれば政府の人々にして果して其方針に隨ひ內外の事を處して能く當局の職任を全うするの覺悟ならんには取りも直さず自から文明の事を行ふものなり我輩は之を文明の政友と認めて其事を助くるに躊躇せざる可し

電報

（時事新報電報）

○西部阿非利加の英佛

（倫敦十一月六日特發）

ラゴスの太守は佛軍が某國保護國內なるナッキを占領したりと聞きて同地へ軍隊を派遣したるに佛軍は撤退したり

○英國と南部阿非利加

（同　上）

英國植民事務大臣ミュールレン氏はクルゲル氏に

○英國政黨の消長

（同　上）

故素職既職員フィールデン氏（保守黨）の補闕として ミッドルトンに於て行へる選擧の結果は左の如く自由黨の勝利に歸したり

五千九百六十四票　ダックワース（自由黨）
五千六百六十四票　ミッチエル（保守黨）

○アレキシーフ雇入契約

（同　上）

京城十一月六日午後特發

露人アレキシーフ氏雇入の契約調印濟みたりその要領は顧問官務總辨として總稅務司もアレキシーフ氏の指揮に任かすに在り年限は無期にして年俸は三千元なり英人ブラウン氏は之が爲め解雇となれり多分今後は露國公使館に於て執務する事となる可し

○議政內部署埋解任

（同　上）

京城十一月七日午後特發

趙秉式は議政署理を申內務氏は內部大臣署理を何れも解任せられたり

○演習北軍の上陸

（同　上）

中津十一月六日午後特發

昨夜序ノ鎭に上陸の北軍を防ぎたる南軍は半佐に退却し北軍三千二百名目下南軍に代りて當地を占領中なり

○演習北軍の進發

（同　上）

中津十一月七日午後特發

今朝未明北軍は南軍を追擊して進て當地を出發せり

○阪鶴鐵道の改築竣功

（同　上）

大阪十一月六日午後特發

阪鶴鐵道神戸池田間改築工事落成したるに付明日より本軌道線に由りて列車の運轉を始む松着時間は官線神戸停車場發着に接續する筈、目下笑尾山觀客非常に多し

○福澤先生の一行

（同　上）

大阪十一月六日午後特發

福澤先生の一行は只今（三時四十分）當地に來着ありたり

○慶應義塾同窓會

（同　上）

大阪十一月七日午後特發

昨日午後六時より堺卯樓に於て慶應義塾同窓會を開きたるに來會者凡そ百名ありて賑はせし如く京阪地方來遊中の福澤先生も臨席して一場の演說ありて會員一同先生の爲め義塾の爲め各萬歲を三唱し夫より酒杯を傾けて午後十時散會せり頗る盛況

○三津濱のコレラ

（松山十一月六日午後特發）

三津濱に昨日劇症の類似コレラを發したり

○溫泉郡のコレラ

（松山十一月六日午後特發）

溫泉郡久米村にも昨日コレラ患者を生じたり

○米價と市況

（同　上）

米價の騰貴は市況大に沈滯せり

○高野氏

（同　上）

高野氏は山丸にて當地に着し直に東上す

○下ノ關砲隊

（同　上）

下ノ關砲隊長四瑞隊長

○本日の議會

（同　上）

本日議會開會

議なりし

○實業講話會

（同　上）

實業家井上馬太郎氏の講話

と聞く筈なり

○大阪

（同　上）

在阪慶應義塾社中

町堺卯に於て秋季

生東都遊學中な

て是非に臨席を請

にも來會するもの

福澤先生は當日午

同三時卅二分梅田

社中の人々出迎へ

所にて先生は幾多

場に赴きたるに百

直に起て開會の

先生を待受け居た

先生は

謝したるに先生は

說を試みたり先生は

君と相見るを得る

の談に入れり其大

余は天保五年十

奥中家の屋敷門

り廿一二歲の頃

なり左れば大阪

勉强したる點よ

情は大抵知らず

何れの屋敷なり

るが如く殊に余

たるみとして中

大阪の事に及び

とは思はぬなり

上阪して講學を

二三年前は所謂

る所に排倒し世

大阪市中を徘徊

らくやら今再へ

も大阪の土地た

の樣に感はず行

有樣なりしと雖

かゝるに補塡な

時には何事と爲

に歡喜哲學する

來苦學するは立

れども余の勉强

く殆んど混沌と

が出來るやら分

氣を揮て馬鹿

めて以て自ら快

きたるみとを今

にわるいとは思

先生歡迎所に至り

新く進歩の精神

の銳氣を以て進

命の修業當時の

如し喧嘩を爲し

氣充實が今日に

て發達が佳事す

のみ此しかの如く

著が其後事する

あるみとは承知